



## 町の予算って、どうやって決まってくるの？

3月定例会は、次年度の町の施策と、それを裏付ける予算を審議する大切な議会です。議員になって、これで3回の当初予算の審議を経験してきましたが、いまだに納得できないことがあります。執行部が予算書をつくる時、各課でどれだけ議論して要求が出され、どれだけ削られているのか、財政事情を含めてもっと積極的にその根拠を議会に説明してほしいと思います。この予算、町はどうやって決めてきたの？と疑問を持たざるをえないようなものが見受けられるからです。

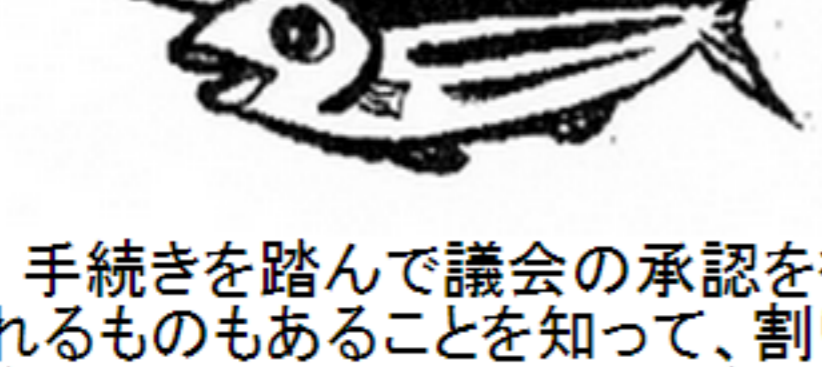
たとえば、「足湯」の1000万円。中之郷の自治会総会で要望が出され、町長が予算をつけるので予算書にあげてきたそうです。「やすらぎの湯」の近くにつくる予定だという説明がありました。総務文教委員会(私もこの委員会に属しています)では、この経緯がまず問題になりました。しかし、足湯は比較的少額でできることや、これまで日本の各地にある足湯が観光客に好評なことから、足湯をつくること自体に反対意見はほとんどありませんでした。ただ、すでに温泉施設が3つもある中之郷につくるのか、観光と福祉の双方の要望に応えるよう、たとえば観光客が必ず立ち寄る空港や港にするか、あるいは別の場所にするかについてはまだ議論が尽くされていません。



もうひとつは回遊魚まじりの1000万円。新鮮な刺身を無料で観光客に食べさせるという企画です。観光客が喜ぶという点で復活に賛成する議員も少なくないのですが、この企画が中止に終わった経緯や費用対効果、さらに島の飲食業への影響も考えて慎重であるべきだという意見も根強くありました。私も、複数の住民から中止を希望する声を聞いていましたし、町が一度中止したからにはそれなりの理由があったわけで、今後も慎重に議論されるものと思っていました。その後(5月30日)の全員協議会で、複数の議員が賛成のに対し、町長は「やめてもいいとは言ったが、やめるとは言わなかった」と発言。さらに執行部は、「地元の飲食業に影響がないよう配慮し、かつ回遊魚の生態と漁法を展示紹介する工夫もしながら、観光客にアピールしていきたい」と答弁しました。しかし、私はその費用対効果についてなお疑問を感じています。

手続きを踏んで議会の承認を得ても、なおもめるものもあれば、多額でも簡単に予算化されるものもあることを知って、割り切れない気持ちが残りました。同時に議員がもっと調査し資料などの根拠をもとに反論する必要があると思いました。

町の財源は無尽蔵にあるわけではありません。年々厳しくなる一方の地方交付税や国・都の補助金。今後町が建設すべき施設はどれくらいあるのでしょうか。急を要するものだけでなく、統合小学校、火葬場、管理型最終処分場、合併浄化槽設置、庁舎、汚泥処理施設、リサイクル中間処理施設などが目白押しです。しかもそれぞれが数億から十数億円の予算を必要とするものばかりです。限られた財源のなかで、何を優先するのか、ムダなものはないか、島の人口に見合った予算規模なのかどうかを慎重に検討しなければなりません。多くの住民が納得できる予算でなければなりませんから。



## 3月議会の質疑からピックアップしてみました

(発言者名は省略しています)

**生活排水処理** 合併処理浄化槽の設置に対する補助は、希望者が町に申請すると設置費用の約半分の補助が受けられる仕組みです。新築の場合は、建築確認の際に合併浄化槽設置が義務づけられているので、すべて設置されることになります。住宅の新築が最近伸び悩んでいる一方で、従来の浸透汲み取り世帯についても同じように補助が受けられるのに申請は少なく、全体として合併浄化槽の設置は思うように進んでいません。最も急がれるべき汚泥処理施設(今は神止山に投棄)の建設費用は約4億円とか。執行部は循環型社会事業計画とあわせて考えていくと答弁しました。

**マウイ島交流イベント** 八丈町はハワイ・マウイ島と「姉妹都市」になっていますが、実質的な交流が薄いのには続ける意味があるのか、遠く交通費がかかる所よりも近くで交流しやすい都市を選ぶべきではないかという意見がありました。執行部の説明は、他にも候補はあるが諸事情で実現していないので、当面はマウイとの交流を続けていくというものでした。

**町の行政改革** 町が行うさまざまな事業の費用対効果の実態は？という質問がありました。町は、3カ年継続している事業、補助金がらみの事業については検証すると答えました。また、今年度から役場内の人事に試験制度を導入し、昇進や昇給に反映させていくそうです。職員の緊張感はこの制度でかなり高まるかも…



**小島のヤギの捕獲** ノヤギの捕獲にはすでに4年という時間と、約1億円の費用を投入していますが、いまだに捕りきれません。最後の手段(銃器)を用いても捕獲を徹底すべきかという意見に対し、町は要綱を変えることで実行すると明言しました。また、ヤギの食肉利用を進めてほしいという要望に対しても、町長の前向きな姿勢が見られました。観光振興のためにもぜひとも実現させたい事業だと私も考えています。

**町のバス事業** 町のバス事業は毎年赤字です。今年度も一般会計から約3400万円の補助金を出します。一般乗り合いバスの赤字は特に大きいのですが、これは通学や通院などに毎日利用する「住民の足」。赤字でも福祉的効果がとても高い。でも、定期観光や貸切りバスについては、様々な取り組みがおこなわれているものの、もっともっと乗客のための努力が必要との認識で多くの議員が一致していました。町のバス事業が、財政を圧迫する事業であることは認めざるをえませんが、住民になくはならないものであることも事実です。



**町立病院** 病院事業の医療費の内訳をみると、入院を要する病気で島外へ出るケースが5割以上を占め、東京の病院に依存する傾向が見られます。ほとんどが高度な医療を必要とする症例です。しかし、外来や歯科については、9割以上が島で受診しているということでしょうか。でも、治療のために東京へ何度も往復する交通費の負担も含め、なにか改善策を考えなくてはならないと思います。

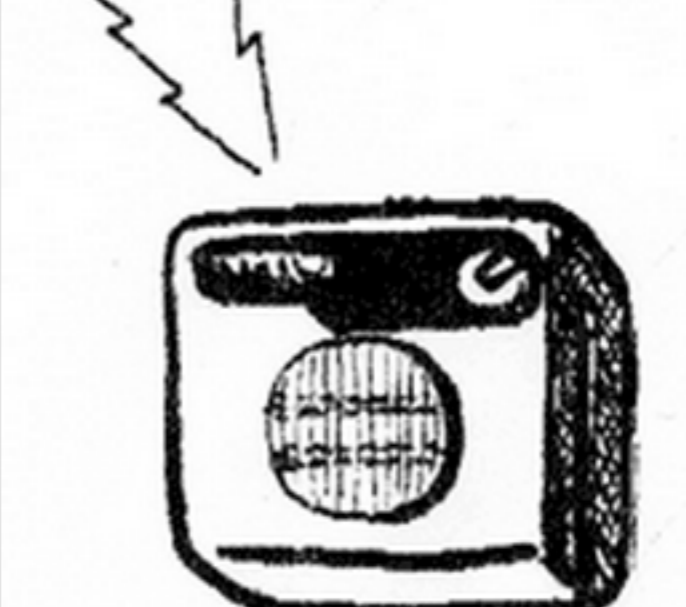
## 3月議会一般質問(2005年3月23日)

### 1. 町の防災無線の設置状況について

**奥山** 防災無線は全世帯に設置されているとのことですが、徹底できていますか。また、現在どれくらいの事業所に設置されていますか。

**総務課長** 屋内受信機はほとんどの世帯で設置されている。また、事業所の設置割合はまだ低く、約100件程度。

**奥山** 受信機は町に申請して設置してもらう方式なので、民間アパートなども含め、町の全世帯に設置できているのか心配です。受信機は、基本的にはすべての事業所にも設置すべきものです。離島では、台風や津波などによる被害が深刻で、海岸線の防災無線の役割は重要なので、屋外拡声器の点検・管理も徹底してほしい。事業所に設置する際の費用負担、客観的な設置基準の検討、屋内受信機の電池交換時期の案内についてお尋ねします。



**総務課長** 費用負担および設置基準の検討については、2年後のデジタル化への対応を考慮し、費用対効果もあわせて最良の方法を考えていく。屋内受信機の電池交換時期の案内については、貸し出しの際電池交換の説明を行っているが、そのほかの周知の方法も検討したい。

**私の考え** 町の防災体制はまだ万全とはいえません。やや儀式化している10月5日の防災訓練も、広く住民が参加し、いざという時に役立つ訓練にしてほしいと思います。緊急時の連絡網や避難場所はすべての住民が知っておくべきことです。自治振興委員との連携も含めて態勢づくりを進めて下さい。

### 2. 京都議定書の発効を受けて、町はどのような環境対策をとるのか

**奥山** 2005年2月16日、「京都議定書」が発効しました。日本に課せられた目標は、1990年を基準に温室効果ガスの発生を6%削減すること。しかし実際は8%増加してしまっただけで14%の削減が目標になります。クリーンアイランドを目指す八丈町として、独自の施策を打ち出し、率先して住民に呼びかけてほしいものです。町としてどのような具体策を考えていますか。

**住民課長** 八丈町はこれまでに、温泉開発、地熱発電、風力発電など、時代を先取りする事業をすすめてきた。「京都議定書」の趣旨を先取りした施策を実践してきている。

**奥山** これらは、民間の事業も含めた環境施策を、一般論として述べているに過ぎず、町独自の施策がないのを残念に思います。

たとえば、「オフィスの冷房・暖房温度を1度上下させる」、「ノーネクタイの実施期間を延長する」、「ハイブリッド車や電気自動車の導入」も考えられます。また、輸送や包装による環境負荷を少なくするために、「島で調達できるものはできるだけ、島のものでまかなう」姿勢が大切。地産地消の動きを生かして、「八丈産の魚や野菜などを食べよう、売ろう、つくるよ」と呼びかけてほしい。住民から省エネのアイデアを募集するのもいいと思います。町はこうした提案をどう考えますか。

**住民課長** 町のごみ処理問題協議会による検討を参考にしながら循環型社会にそった政策を実行に移していく。

**私の考え** 国も都もすでに具体的な施策を打ち出しています。地球環境を守るための世界的な約束が、日本の京都で交わされたことを私は誇りに思います。自分だけが頑張ってもダメだからとあきらめないで、一人ひとりが努力することが必要だと思います。

## 小学校統合問題のその後

榑立小と中之郷小の統合校舎建設場所について、執行部は、1月21日に全員協議会で三原中併設案をうちだしました。その後、統合問題協議会にも説明しましたが、中之郷住民を中心にこの併設案に納得できないという声があり、反対の動きは、1000人を超える署名活動へと進みました。

一般質問でも統合問題が取り上げられました。山口英治議員と菊池睦男議員は、それぞれ立場を異にするものの、執行部と教育委員会に対し住民への説明が足りぬことを指摘しました。これに対する町長も、執行部長も謝罪し、住民に対し誠意説明すると答弁しました。しかし、住民への説明は、それから1か月も後のことでした。

5月16日、三原中併設案に反対を表明している中之郷住民に対する、町と教育委員会の2回目の説明会が開かれました。併設だけはやめるべきだという強い反対と町や議会への批判。教育委員会と町執行部の説明も、反対する住民を納得させるには足りませんでした。私も議員として説明しましたが、十分ではなかったし、教育に対する私の思いを伝えられなかったことは反省しています。

今、ほとんどの議員は(私も含めて)、特別委員会の結果を重視しています。三原中前案は財政的な課題に加えて、学校建設用地としての立地条件が整っていないことが大きな問題だからです。しかし、これについては住民が納得できるように、もっと具体的な根拠を示す必要があると思います。また、これまで出された批判や疑問に対し、ひとつずついねいに答える解説書のようなものをつくるべきでしょう。

5月30日の全員協議会で、町長は「三原中に併設します」と明言しました。執行部は今後、反対している中之郷住民に対して、具体的な資料を示した上でさらに説明する必要があります。また、住民全体に対しても、これまでの経過と建設計画を説明するだけでなく、しっかりと町の教育方針を示してほしいと思います。

### ぶ・れ・い・く・た・い・む

先日仕事で5年ぶりに三宅島へ。二酸化硫黄の臭気は予想以上に強いものでした。一方ガスもなく、緑豊かなたずまいを残しているところもありました。この間に約800億円の公共事業がなされたとか。土砂流出防止の砂防ダムがその間にあって、必要なものはいえ、緑の森が痛々しく変貌した光景をみるのは辛かったです。しかし住民のみなさんは明るく前向きでした。一日も早く復興されますように。



## 編集後記

『魔女の宅急便』の作者、角野栄子さんの話を聞きました(5月21日大賀郷公民館)。賢くて夢多き大人の、想像力あふれる話でした。大人が豊かでおおらかであることが、子供を想像力のある人間に育てていくのだと思ひ、これまでの子育ての日々を深く反省しました。息子はすでに高校生、いまさら修正なんかできないけど、それにしても、なんかゆったりいい時間だったな…

恒例の視察も日程の調整がつかず、参加しませんでした。今年は、私自身の問題意識で訪ねたいところを、自前で行動しようと思っています。報告？もちろんいたしますよ。

[このページのトップへ戻る](#)

[議会だよりのページへ](#)

[幸子の表紙ページへ](#)